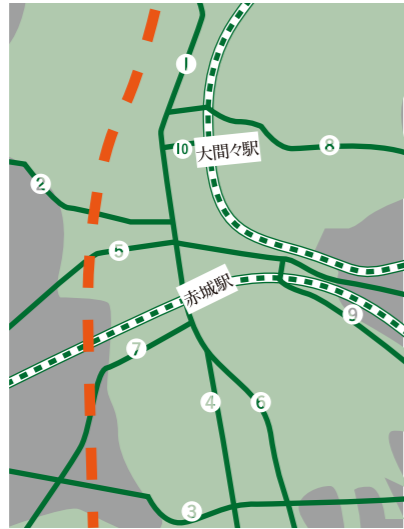


1 充実した交通網とモータリゼーションの進行

充実した交通網

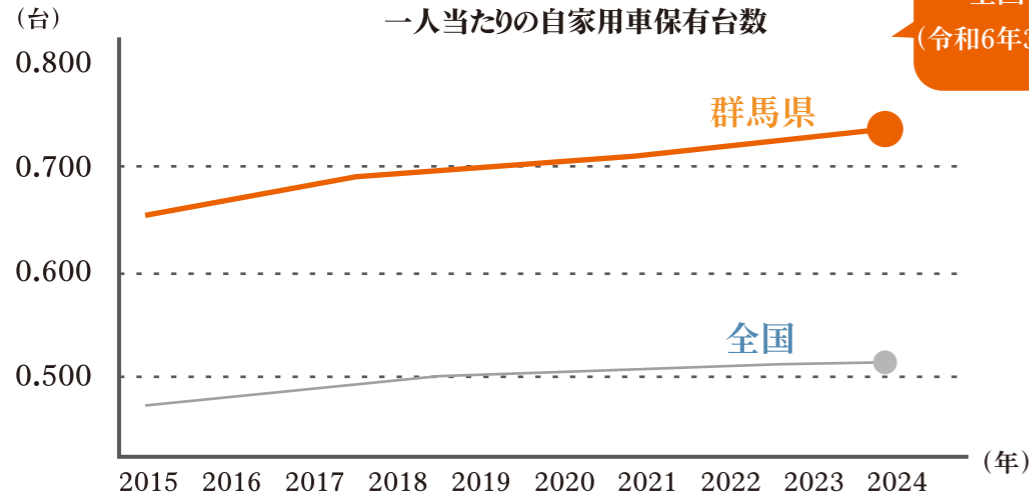
あかがね街道の宿場町として栄えた大間々は、絹や生糸の取引所としても利用され、交通網が整備されました。時代が流れ、宿場町として栄えた時代が終わると、みどり市周辺の高速道路沿いに製造業の工場が増加しました。それらの工場へ勤める市民が増えたことで、さらに交通網が充実しました。



- 新設予定県道
- 国道：10路線
- - - 鉄道：4路線
 - ・上毛電気鉄道上毛線
 - ・東武鉄道桐生線
 - ・東武鉄道特急りょうもう号
 - ・わたらせ渓谷鐵道

高い自動車保有率

群馬県は、一人当たりの自家用車保有台数が全国平均より高い水準で推移しており、「車は1人1台」という傾向が強くなっています。

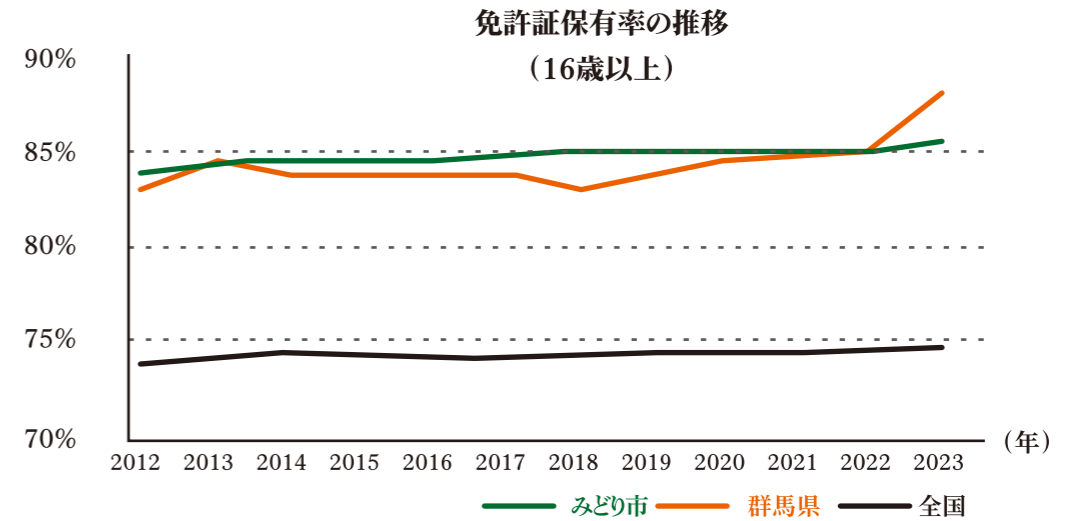


全国1位
(令和6年3月現在)

出典:「一般財団法人自動車検査登録情報協会_都道府県別の自家用乗用車の普及状況(軽自動車を含む)」を加工して作成

高い免許証保有率

群馬県は、免許証保有率も高い水準で推移しており、みどり市の16歳以上の免許証保有率も同様の水準で推移していることから、モータリゼーションの進行がうかがえます。



出典:「総務省統計局_人口推計(2023年(令和5年)10月1日現在)」「群馬県_群馬県年齢別人口統計調査結果(令和5年10月2日現在)」「内閣府_交通安全白書」、「群馬県警察_みどり市の免許証保有者数」を加工して作成

総人口における免許証保有率ランキング

群馬県は2023年の全国免許証保有率ランキングで全国2位でした。みどり市の免許証保有率は群馬県と同様の水準であるため、みどり市は全国的にみても免許証保有率が高いといえます。

順位	都道府県	免許証保有率	人口(人)	免許証保有数
1位	山梨県	73.37%	796,000	584,031
2位	群馬県	73.30%	1,902,000	1,394,156
3位	長野県	73.19%	2,004,000	1,466,761
4位	栃木県	73.03%	1,897,000	1,385,395
46位	大阪府	58.63%	8,763,000	5,137,839
47位	東京都	58.21%	14,086,000	8,200,108

みどり市は
74.24%

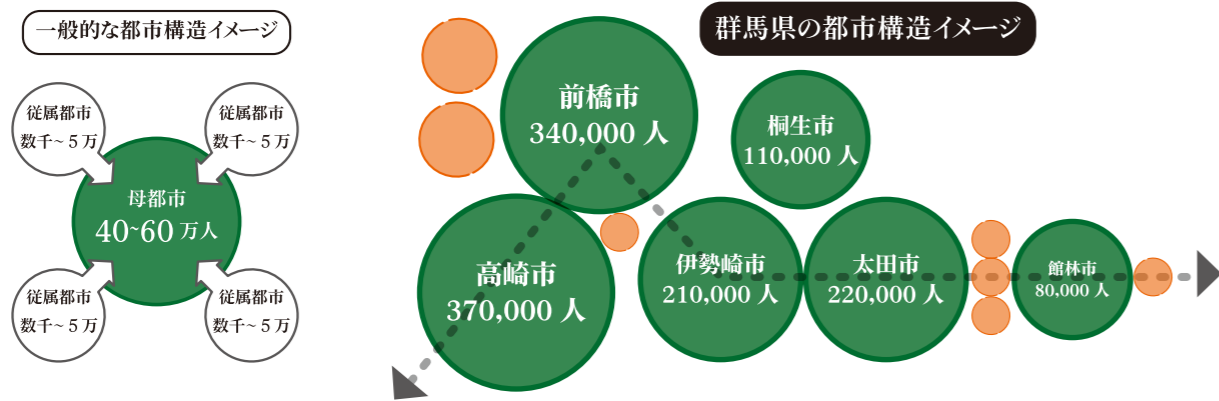
出典:「総務省統計局_人口推計(2023年(令和5年)10月1日現在)」、「警察庁_運転免許統計」「群馬県警察_みどり市の免許証保有者数」を加工して作成

2 特有の都市構造と生活エリアの分散

広域化しやすい群馬県の都市構造

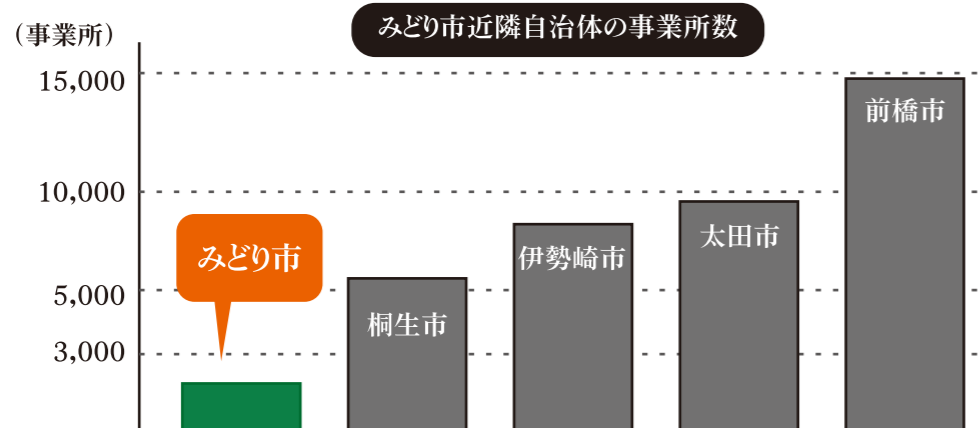
群馬県の都市構造は一般的な都市構造と異なっています。一般的な都市構造は、母都市となる人口40～60万人程度の都市の周りに、人口数千～5万人程度の従属都市が複数存在し、従属都市の人々は母都市を利用して生活しています。一方で、群馬県の都市構造は、母都市が存在せず、人口10～40万人程度の中都市が乱立しており、より小さい都市はそれらの都市を利用して生活しているため、生活エリアが分散しやすい都市構造となっています。

みどり市も桐生市、太田市、伊勢崎市などの中都市に囲まれた自治体となっています。



特有の都市構造の中で、みどり市の事業所数は少ない

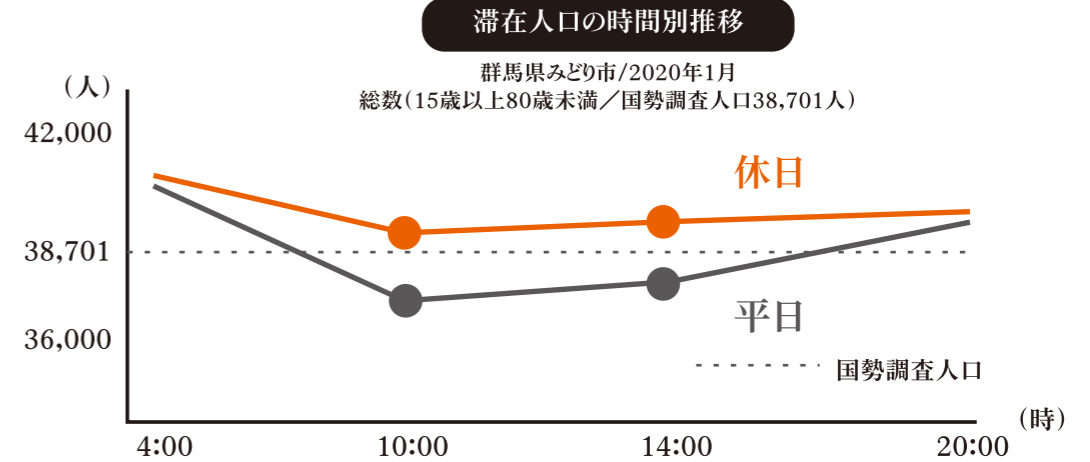
特有の都市構造を持ち、生活エリアが分散しやすい群馬県において、事業所数は働くまちとして選ばれていることの指標の1つになります。みどり市は近隣自治体と比較すると事業所数が少なく、近隣自治体が働くまちとして選ばれていることがうかがえます。



出典:「群馬県_令和3年経済センサス-活動調査(確報)産業横断的集計結果の概要(群馬県版)」を加工して作成

昼間人口が減少し、周辺都市のベッドタウン的な性格がある

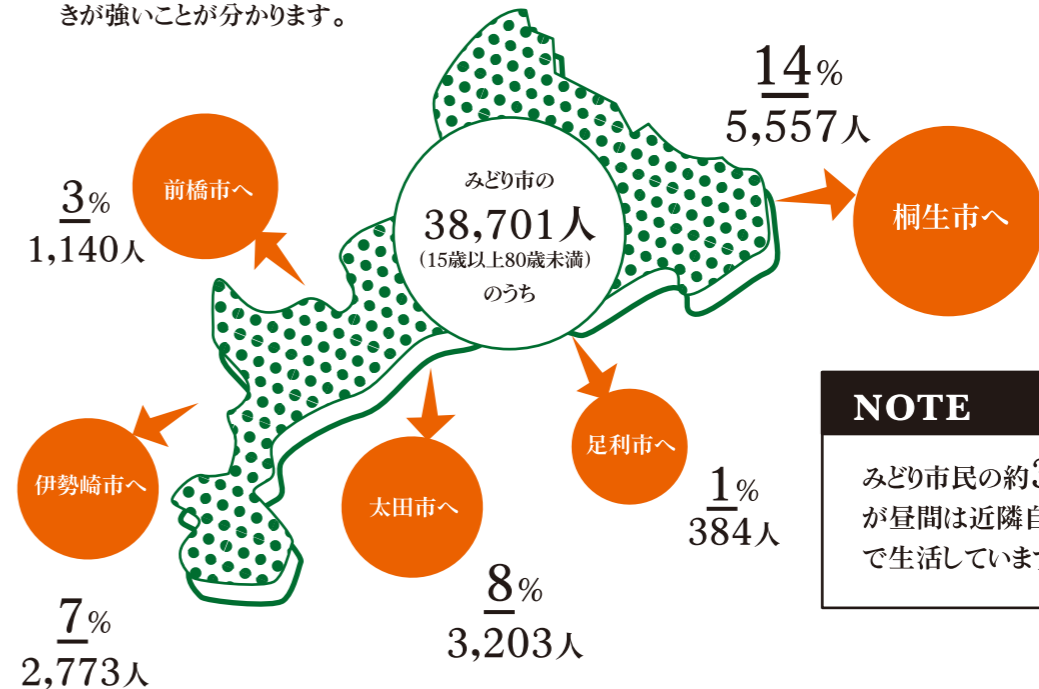
平日のみどり市の昼間人口は夜間と比較して低くなっており、みどり市は周辺都市のベッドタウン的な性格をもっています。



出典:「RESAS(地域経済分析システム)_滞在人口率」

近隣自治体に分散する昼間人口

みどり市民の昼間の滞在先上位5自治体を見ると、県内自治体においては左記棒グラフのとおりいずれもみどり市より事業所数が多い自治体となっています。みどり市民の約30%が、働くまちとして近隣自治体を選んでおり、特に桐生市を選んでいる人が多く、生活圏の結びつきが強いことがわかります。



NOTE
みどり市民の約30%が昼間は近隣自治体で生活しています。

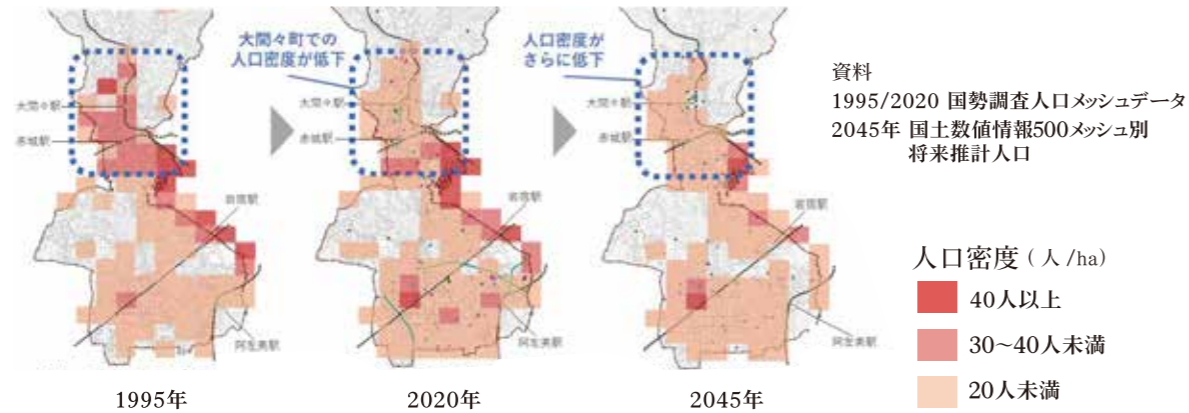
出典:「総務省統計局_令和2年国勢調査」を加工して作成

3 まちなかの空洞化

生活エリアの分散による、居住地エリアの分散

生活エリアが分散し、生活の中心となるまちなかが必要とされなくなった現在では、大間々のまちなかに住む必要がなくなり、それぞれの価値観で居住地を決めることができるようになりました。

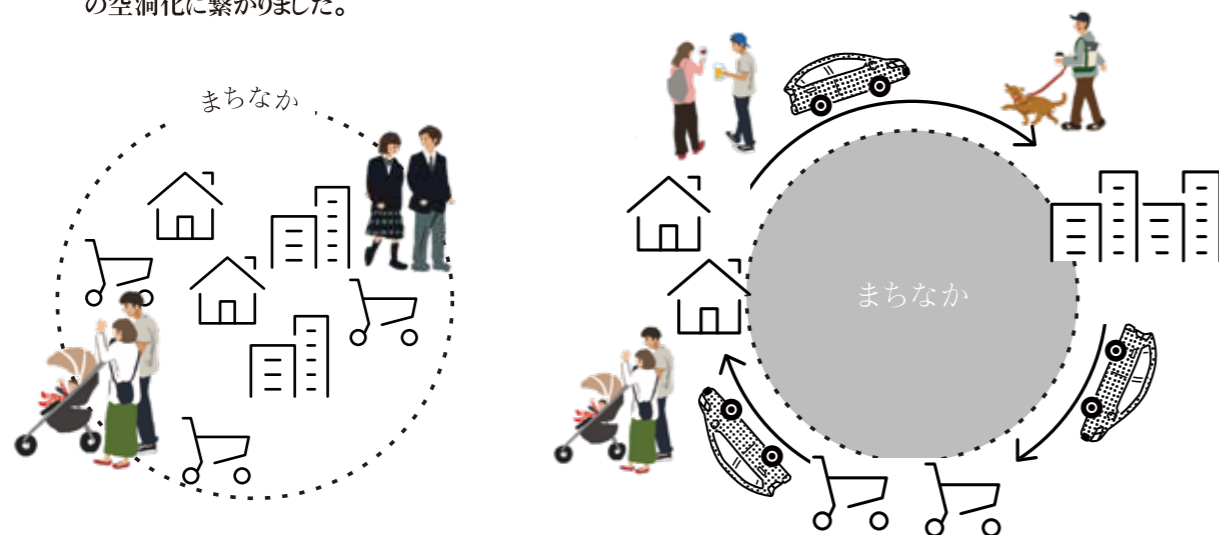
また、区域区分を定めていないみどり市では、居住地を他市と比較して自由に決めることができるため、居住地エリアが分散していきました。



出典:「総務省統計局_平成7年国勢調査」、「総務省統計局_令和2年国勢調査」、「国土交通省_国土数値情報」を加工して作成

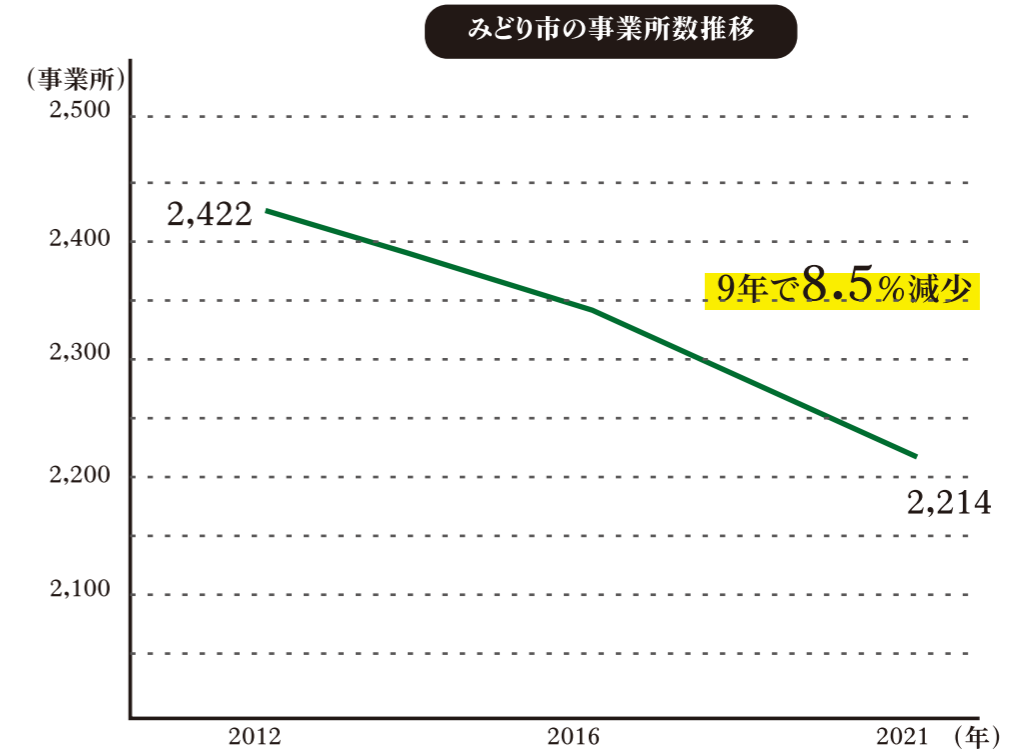
まちなかとして栄えた大間々の空洞化

モータリゼーションの進行と生活エリアの分散により、大間々の人々は近隣自治体で働き、ロードサイドの商業施設で買い物をする生活スタイルになりました。その結果、まちなかが必要とされなくなり、まちなかの空洞化に繋がりました。



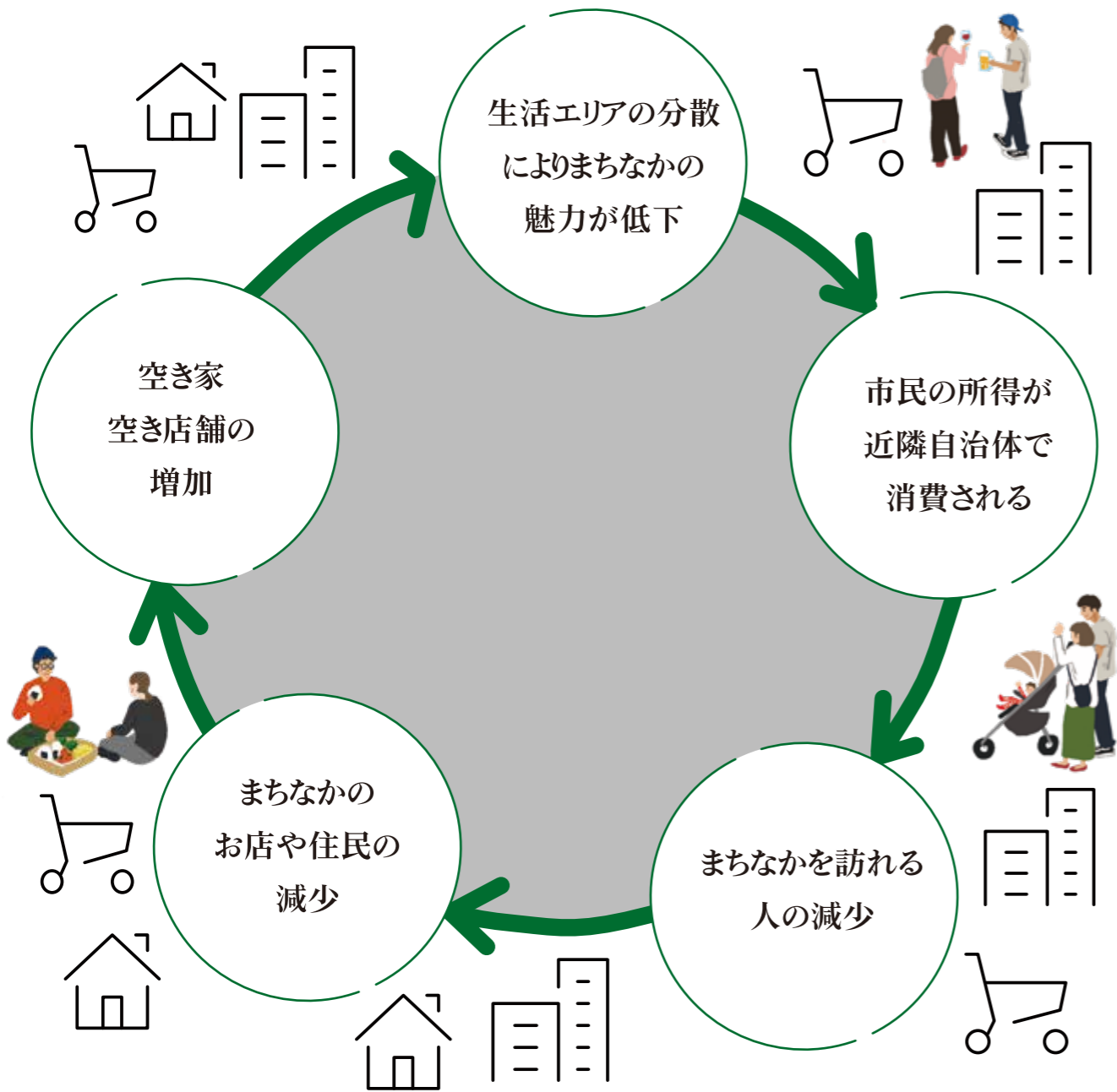
事業所数の減少から予想される更なるまちなかの空洞化(参考)

みどり市の事業所数は減少傾向にあり、2012年から2021年にかけて8.5%減少しています。事業所数が多い自治体に勤めることは当然であり、今後も生活エリアの分散によるまちなかの空洞化が進行していくことが予想されます。



出典:「群馬県_令和3年経済センサスー活動調査(確報)産業横断的集計結果の概要(群馬県版)」を加工して作成

「ヒト」と「カネ」の流出によりまちなかの魅力が低下している



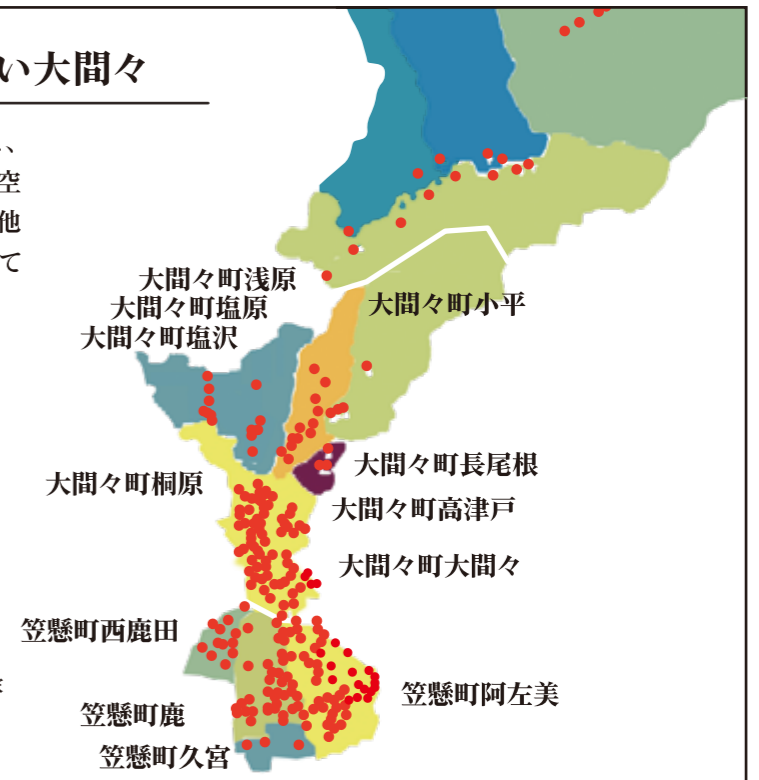
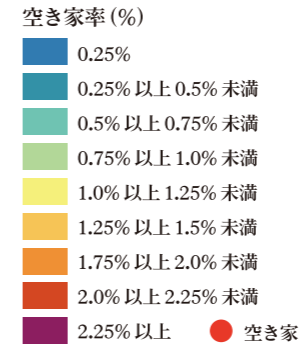
Data

ヒトとカネが流出していることによる「まちなかの魅力低下」が見受けられるデータ例

next page

01 空き家の割合と密度が高い大間々

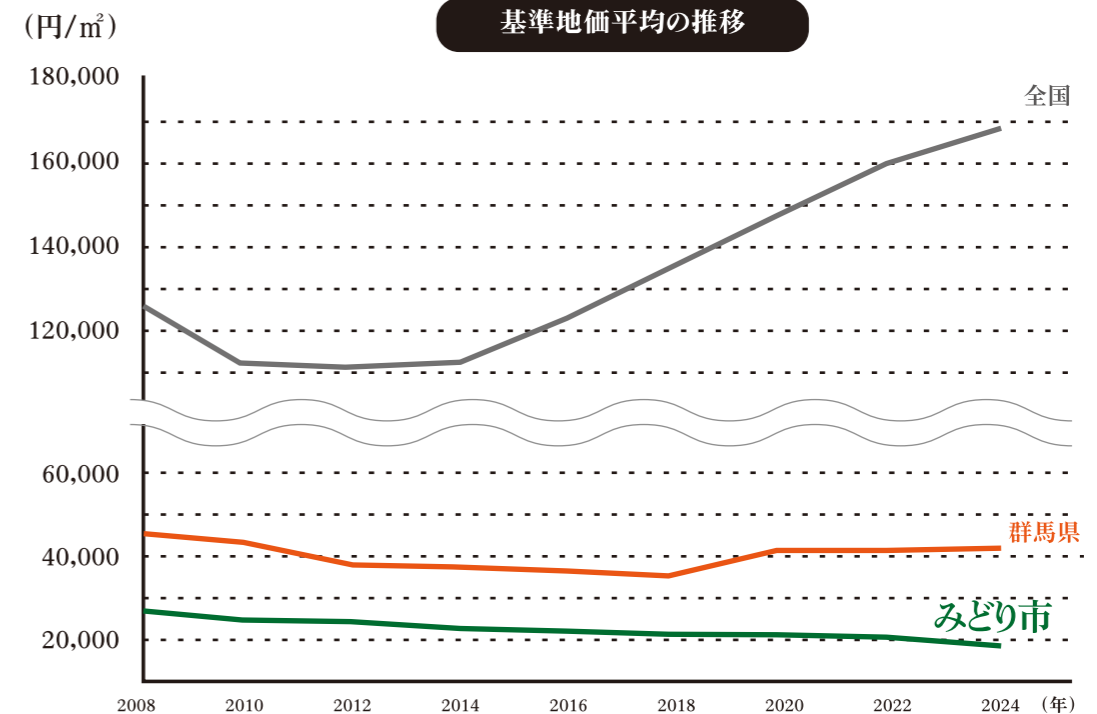
かつて、まちなかとして栄えた大間々は、市内の他地域より空き家が密集しており、空き家率の高い地域となっています。市内の他地域と比較しても大間々の魅力が低下していることがわかります。



出典:「みどり市空き家対策計画」

02 基準地価平均は2008年から約3割減少している

みどり市の基準地価平均は群馬県の基準地価平均を大きく下回っている状態で、2024年時点においても減少傾向にあります。一方で、全国の基準地価平均は2010年時点以降は上昇傾向にあり、みどり市の地価の低下が際立っています。



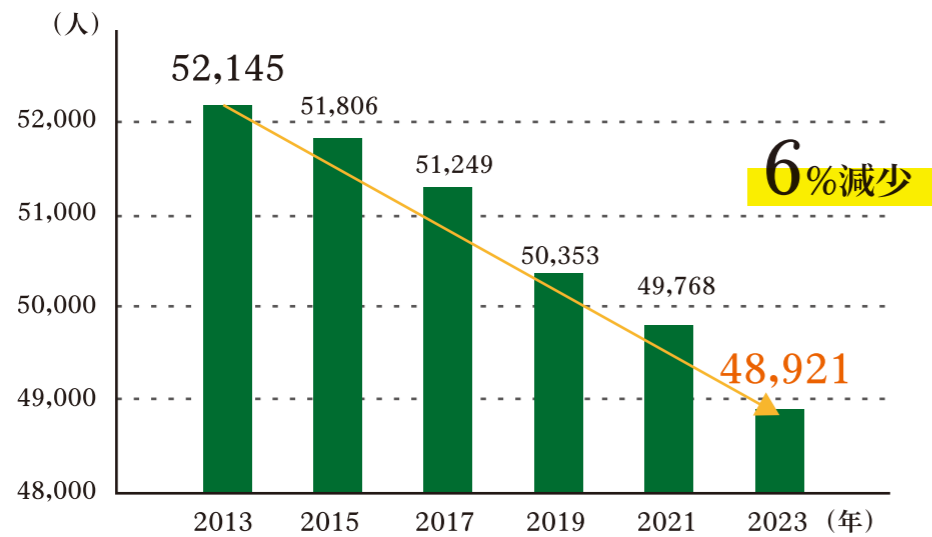
出典:「群馬県_地価調査基準地価格」、「国土交通省_都道府県地価調査」を加工して作成

1 ヒトの流出（特に「若者」「子育て世代」）

Data

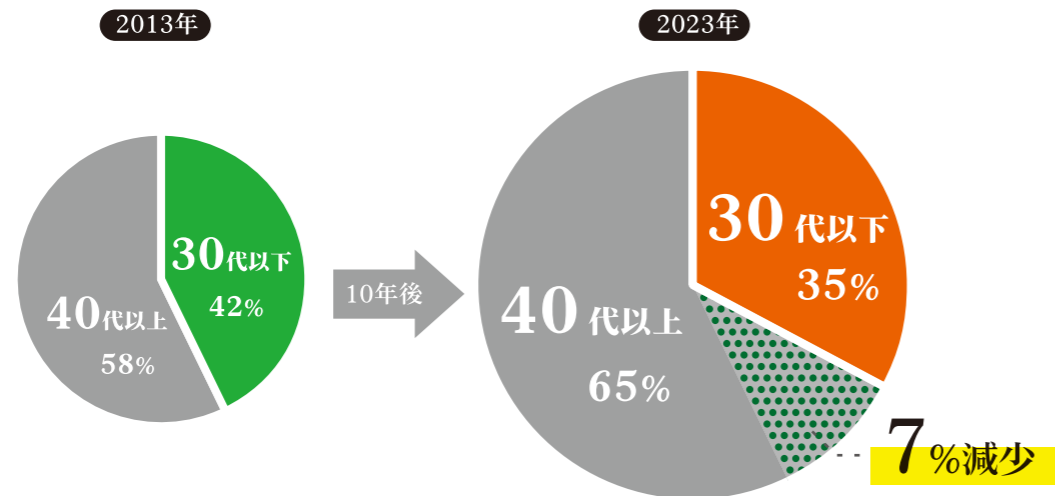
みどり市の人口と若者人口割合の推移

みどり市の総人口は減少傾向にあり、2013年から2023年にかけて約6%減少しており、若者人口の占める割合も減少しています。



出典:「みどり市の年齢(各歳)男女別人口」を加工して作成

30代以下の割合は？



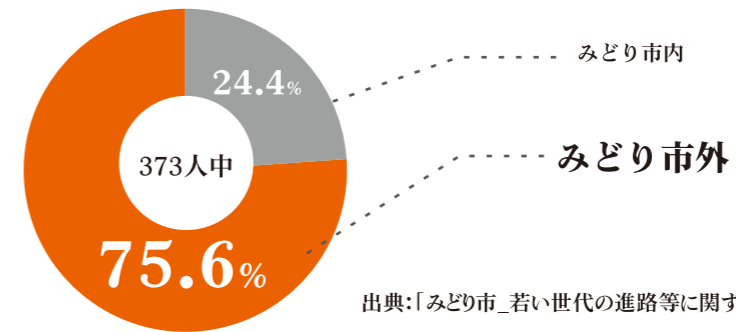
出典:「みどり市の年齢(各歳)男女別人口」を加工して作成

Data

将来、働きたい地域は？

市内の学校等を卒業した若者を対象に実施したアンケート結果では、将来みどり市で働きたい若者は24.4%に留まっており、

今後も若者世代の流出が見込まれます。



出典:「みどり市_若い世代の進路等に関する調査_平成31年3月」を加工して作成

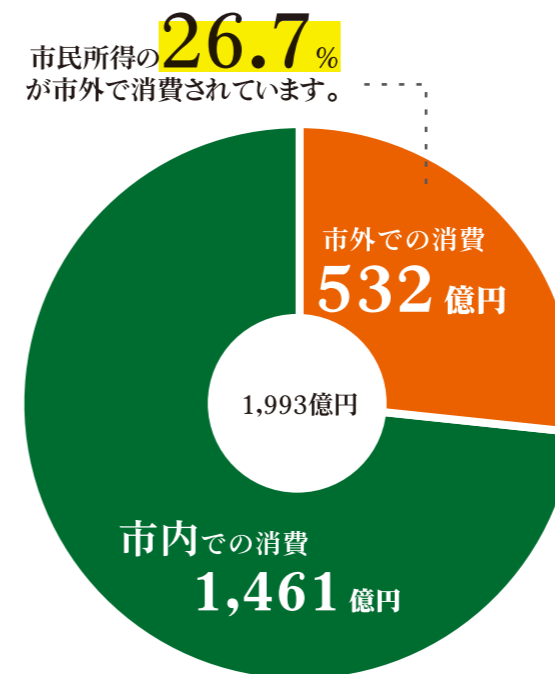
2

カネの流出

Data

みどり市民はどこで買い物をしている？

みどり市民の所得1,993億円のうち、市内で使われている額は1,461億円となっており、経済循環率は73.3%と群馬県内ワースト6位の赤字状態を示しています。市内外の消費・投資の需要はありますが、受け止めきれず、付加価値を高めるという好循環になっていない状況です。



出典:「RESAS(地域経済分析システム)_地域経済循環図」加工して作成

群馬県内35市町村地域経済循環率ランキング

ワースト順		
1位	長野原町	56.5%
2位	榛東村	60.2%
3位	吉岡町	63.4%
4位	南牧村	63.9%
5位	神流町	65.7%
6位	みどり市	73.3%
7位	片品村	75.0%
8位	中之条町	75.5%
上位		
1位	千代田町	203.2%
2位	明和町	160.7%
3位	大泉町	160.2%
4位	太田市	126.0%
5位	上野村	108.6%
6位	安中市	103.7%
7位	富岡市	102.4%
8位	伊勢崎市	102.3%